

腸管出血性大腸菌感染症 発生動向

腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症は、Vero 毒素を産生、または VT 遺伝子を保有する EHEC の感染によって起こり、主な症状は腹痛、水様性下痢および血便です。EHEC 感染に引き続いて発症することがある溶血性尿毒症症候群（HUS）は、死亡あるいは腎機能障害や神経学的障害などの後遺症を残す可能性のある重篤な疾患のため、感染症法では、三類感染症に分類されている、全数把握疾患です。

全国の 2019 年報告数は、第 20 週から増加し始め、第 26 週は 126 例です。本年第 26 週までの累積報告数 993 例で、直近 5 年間（2014～2018 年）の各年同週までの累積報告数と比較して、2018 年に次ぐ報告数になっています。

届出は年間を通じて発生しますが、特に春から夏にかけて多く報告されます。

和歌山市においても今月に入り 2 名の届出を受けています。

つきましては、腸管出血性大腸菌感染症を診断した場合は、直ちに届出いただきますようお願いいたします。

	和歌山市	和歌山県	全国
2019年	3	10	993(26W 現在)
2018年	4	17	3852
2017年	5	10	3904
2016年	2	15	3647
2015年	3	8	3568
2014年	6	12	4156

